



# 病院等に関する検討委員会の状況 No.1

## —医療体制の充実に向けて— 委嘱状交付・第1回検討委員会を開催

石川町の医療体制の充実に向けて、病院等の機能や設置等について検討する「病院等に関する検討委員会」を5月16日に設置し、委嘱状交付・第1回検討委員会を開催しました。

検討委員会は、副町長を委員長に、医療、福祉、商工農業関係者及び町民の方12名で構成しています。

○検討委員会委員の構成は次のとおりです。 (敬称略)

- |                                  |                        |
|----------------------------------|------------------------|
| 委員長 二瓶 義雄(副町長)                   | 副委員長 鈴木 后世(東石歯科医師会副会長) |
| 委員 田畑 裕(石川郡医師会長)                 | 委員 菅野 欣吾(石川郡薬剤師会長)     |
| 委員 遠藤 秀道(石川福祉会常務理事)              | 委員 國井 明(石川町民生児童委員協議会長) |
| 委員 桑澤 恵美子(桜が丘学園施設長)              | 委員 橋本 栄一(石川町商工会長)      |
| 委員 郷 隆雄(石川町の国民健康保険事業の運営に関する協議会長) |                        |
| 委員 小林 典子(JA夢みなみあぶくま石川 女性部長)      |                        |
| 委員 瀬谷 守夫(石川町区長会長)                | 委員 山崎 愛(石川中学校PTA 役員)   |

### 【説明内容(概要)】

#### 1. 委員会の設置

町民の安全安心を図るため、医療体制の充実に向け「町民が求める病院像」を検討するための委員会を設置しました。

#### 2. 石川町の国保・後期高齢者の医療の現状について(H29年3月～H30年2月診療分)

##### ○入院で利用する医療機関の所在地

- ・国保、後期高齢者ともに、郡山市や須賀川市の病院の受診が多い。  
国保加入者……郡山市 41%、須賀川市 33%、白河市 8%  
後期高齢者……須賀川市 39%、郡山市 26%、石川郡内 14%

##### ○通院で利用する医療機関の所在地

- ・通院では、国保、後期高齢者とも、石川町の医療機関の受診割合が約5～6割。  
国保加入者……石川町 45%、須賀川市 19%、郡山市 17%  
後期高齢者……石川町 61%、須賀川市 15%、郡山市 11%

##### ○石川町内・郡内の診療所等の診療科目

内科、外科、整形外科、小児科、消化器科、循環器科、呼吸器科、皮膚科、眼科、神経内科、精神科、リハビリ科、肛門科、歯科があります。

#### 3. 石川町救急件数等の状況について (平成30年)

- 救急搬送件数……643件(646人)
- 年齢区分別……乳幼児 4%、少年 5%、成人 30%、高齢者 61%
- 搬送先医療機関所在地……郡山市 32%、須賀川市 28%、平田村 18%、白河市 15%

#### 4. 病院等の開設方法について

病床数は、病床の種別に応じ、医療計画で定める区域ごとに基準病床数が設けられています。既存病床数が基準病床数を超える地域は、病院開設・増床は認められません。

- 県中地区……基準病床数 5,207床、既存病床数 5,744床、過剰病床数 537床
- ただし、同一医療圏内での移転や開設者の変更、公的病院を含む再編統合は可能。
- 地域の医療需要を踏まえ、必要とされる病床数19床以下の診療所の開設は可能。

★ 裏面もご覧ください。(委員からのご意見等(要旨)があります。)

## 【委員からの主なご意見等(要旨)】

- 病院を誘致するのに、用地提供の規模はどれくらいなのか。
- 町に来ようとしている病院から、具体的な提案はあるのか。医療構想、ビジョンはあるのか。
- 土地、建物をどこまで提供するのか。どういう病院が欲しいのか、移転してくる病院はどういう病院をつくりたいのか。ビジョンは。町の考えは。
- 診療所も歯科医院も十分ある。親身に診察を行っている。病院はあるにこしたことはないが、あるからといって、いつでも診てもらえる訳ではない。専門的な部分で話をしてから検討委員会で決めてもよいのでは。
- ニーズの変化により、既存の診療所と他の医療機関との連携強化の考えもあるのでは。町民は、医療の充実した須賀川市や郡山市などの医療機関に行くと思う。医療の分担とか救急搬送体制とか町と医療機関の関わり方を考えるのもよいのではないか。
- 人口規模1万5千人、少子高齢化の石川町に必要な医療は何か、誘致する病院の現状を踏まえて、実現可能なところから積み上げてはどうか。この機会は、病院をつくるチャンスなので逃すべきではないと思う。
- どこの町村も医療に関しては同じ悩みを持っているはずなので、このチャンスを活かしてモデルケースになるような体制を築いてみてはどうか。
- 石川町の人口は1万5千人で、小野町の人口は1万2千人なのに公立病院があり、運営している。経営や運営方法を調査して、石川町に誘致する病院の診療科目や病床数などの規模等を検討できるのでは。
- 郡内にある病院は、高原道路を使用すれば、20分もかからない場所にあり、石川町からは遠くない。多額のお金を使って誘致しなくても、現在ある病院を活用する方法を考えればよいのでは。病院に運ぶ方法を考えればお金がかからなくてすむのでは。ある病院を充実させたほうがいい。現状、十分機能できているように思う。
- 移転して来る病院の経営状態も知る必要があるのでは。規模等だけでは決められない。石川町に病院が来るとして、病院がなくなる地域はどう思っているのか。こちらだけでこういう話をするのは失礼な気がする。
- 石川町の人口は、1万5千人だが、商業ベースの集客エリアをみると、須賀川市や白河市に行く人が多い。病院を利用する人口は何人になるのか調査したうえで検討する必要があるのではないか。
- 石川町出身の若い医師たちがいる。石川町に病院ができたら、帰って来たいと思うようなアプローチの仕方を考えるのはどうか。病院でなくても、診療所でもいいので建てて、医師の人材バンクをつくり、月1回、週1回など石川町に無い診療が定期的に提供できるドクタータウンのような場所や登録制度をつくる方法もあるのではないか。
- 19床以下の有床診療所は、現在、県内や県中管内でどのくらいあるのか。有床診療所の数と病床数を知りたい。病院建設に財源を使うのではなく、有床診療所の開設や運営に補助するのはどうか。

上記の意見等を踏まえ、今後の検討委員会の中で、病院等の機能や設置等について検討していきます。

令和元年6月

病院等に関する検討委員会委員長 二瓶 義雄